市民福祉の向上を
県立大学看護福祉学部と官学連携

握手を交わす（左から）山岸市長、眞野学部長、小林教授、金谷講師

4月21日、県立大学看護福祉学部の眞野元四郎学部長、小林明子教授、金谷志子講師が市役所を訪れ、山岸市長と対談して、同大学の研究および市の政策課題について、協力して取り組んでいくことを確認しました。

市の高齢化率は約28％と高くなっており、今後ますます高齢化が進むことが予想されています。それに伴って、福祉の対応がより高度に、複雑になってくる環境にあります。市では、同大学看護福祉学部と連携することで、福祉施策に学問的、理論的裏付けがなされ、より的確な対応ができるものと期待しています。

具体的には、市は同大学の研究プログラムに対して、実践できる場を提供したり、調査活動の準備や協力を行ったりします。また、同大学は、市の福祉施策に対してアドバイスや技術指導などを行います。

特に本年度は、膝関節痛がある高齢女性を対象とした教育プログラムを実施します。

平成20年度における連携の基本事項

1. 双方の関係者の交流による具体的な連携に向けた準備
2. 大学側の研究プログラムの勝山市域での実施
3. メンタルヘルスケア対策支援
4. 保健師、ケースワーカーなどに対するメンタルヘルスケア技術指導

大学の研究プログラムへの勝山市からの協力

- 膝関節痛を持つ高齢女性を対象とした教育プログラムの実施
（高齢になっても自立した日常生活を送るには「歩行する」ことが重要であることから、膝関節痛の発生と増幅を予防するための保健指導の指針を見い出します）
- 地域包括支援センターにおける保健師の活動内容調査の準備
（介護予防事業や相談業務内容を分析し、今後の保健師活動の方向性を見い出します）
- 高齢者の「閉じこもり」の実態調査の準備
（認定情報などを活用して、閉じこもりの実態と要介護状態の関連についての研究を行います）

勝山市の施策に対する県立大学からの協力

- 事例研究会へのアドバイス
- 終末期における在宅介護支援
- 高齢者虐待防止ネットワークへのアドバイス
- アルコール依存者に対する自立支援プログラムの指導
- 障害者自立支援法施行に伴う課題の解決支援
- 地域福祉計画策定のためのアンケート実施についての協力

協力して実践を

市　長　県大には、勝山市出身の学生や卒業生も多くいます。そういったことから、良い取り組みができるものと信じております。

学部長　勝山市とは、今までも様々な関係の中でお力添えをしてきたという実績もあります。

小　林　勝山は自然が豊かですごく良いところだと思います。一人暮らしになっても、高齢者になっても、障がいを持っていても、地域で暮らしていけるような仕組みや条件づくりが必要だと思っています。

市　長　一人暮らしの高齢者の身体が不自由になると、家族の支えだけでなくて、地域の支えも必要になります。これを、さらに行政が支えていくためのアドバイスをいただきたいと思います。

学部長　こういった問題に対しては、複数の学部の専門領域が、一つのチームとして動いていく組織づくりが必要でしょうね。その時は、我々が必要な所に声を掛けて、協力をしてもらえるようにと考えています。

市　長　県大の総合力で研究をしていただくことを期待したいです。

学部長　我々の取り組みがどういった方向で進み、どういった問題が出てくるか、そのたびに最善の手だてを講じていけたらなと思っています。

市　長　短期間での成果を期待しておりませんので、長い取り組みの中で、信頼関係を醸成し、長いおつきあいをお願いしたいですね。

金　谷　全国の統計では、膝が痛いと言う高齢女性はとても多くて、寝たきりへの不安も強く持っています。勝山市が実践の場を提供してくださるということで、教育プログラムを作りましたので、ぜひさせていただきたいと思っています。

市　長　私も、自分もいつか身体が悪くなるのではないかという不安があります。こちらこそよろしくお願いします。

学部長　年を取っても、精神的・身体的な面を補てんする工夫があると思います。また、官民一体型の施策のためにも、住民の力をどう引き出すかということが、重要なテーマだと思いますね。

より良い人間関係の創造を

市　長　また、終末期における在宅介護支援や、アルコール依存者に対する支援プログラムの指導などについても、ご協力をお願いします。

学部長　地域の組織化ができるかできないかによって、対応も左右されます。専門の研究者の力を借りることも必要になると思います。

市　長　市民の意識を啓発して、市民が一緒になって力を出していく仕組みづくりですね。

小　林　「どういった人が一番気兼ねなく話せる人か?」というアンケートに対して、勝山では配偶者が1位で、2位が友人なんです。友人など家族以外との人間関係が大切なキーワードですね。

学部長　この人間関係の良し悪しが、全てを決めてしまっているんじゃないかと思いますね。保健師はまさにそうですよね。

市　長　メンタルヘルスケアの充実は今後、重要なテーマだと思います。高齢者のケアなども人間関係の信頼がなかったら、いかにテクニックなり言葉なりを使ってもダメでしょうね。

学部長　我々も、絶えず自分の腕とともに人間性を磨いていかないと、思うように進まないことになりますね。

小　林　調査を行うときには学生と一緒にできればいいなと思っています。

市　長　そういう新しい目で現状を見ていただき、アドバイスをいただくことも、我々にとって刺激になりますしね。ぜひお願いしたいと思います。

問　未来創造課（☎88－1115）